ISSN 1342－632X
国際資料研究報 Documenting Japan International Report 国際資料研究報 Documenting Japan International Report 国際資料研究報 Documenting Japan International Report 国際資料研究報 Documenting Japan International Report
DJI
DJ I レポート No. 121 20200730
国際資料研究報 Documenting Japan International Report 国際資料研究報 Documenting Japan International Report 国際資料研究報 Documenting Japan International Report 国際資料研究報 Documenting Japan International Report
〒251-0045 神奈川県藤沢市辻堂東海岸3－8－24 phone 0466－31－5061 Email：djiarchiv@yahoo.co.jp

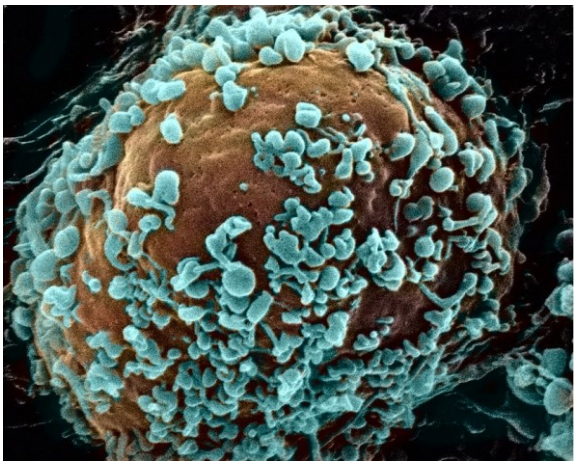
コロナのグローバル性

■コロナのグローバル性？

「コロナのグローバル性」、先ごろ始めたブログの中で、何気なく思い付きでこう書いた。すぐさま、その意味を問われた。確かに思い付きの表現であるから、その意味を今一度明らかにしておいたほうが良いと思った。今になって改めて考えても、「コロナのグローバル性」とは、コロナ禍の世界規模での広がりを良く表現したひとことだと思う。その背景を考えると、コロナは平等に世界各地に感染蔓延したようだし、その結果各地各国が政治的な対応策を講じたし、住民はそれに対応してガマンしたり暴れたりしているといってよいと思う。地理的分布が限定的に特定できず、世界各地でコロナの感染が広がっていることは、日々の報道等々で確認できる。世界規模の感染が広がっているのだから。（本来であれば、こういうことをきちんと調査して根拠を示さなければ、説得力に欠けると思うけど、情報収集してこなかったので、今の私には根拠を適切に示す資料は持ち合わせない。なので、思い付きの放言としてここに記すことを、読者諸兄諸姉に置かれては、ご容赦願うものである。）

■コロナ感染が始まったころ

思い出してみれば、今年はじめからの、たぶん中国・武漢で始まったコロナ感染が世界各地へと「蔓延」していった事実、蔓延により中国だけでなく、世界各国に感染状況が出現したこと、それぞれの対策を講じたことなどの対応状況や政治のありよう等々は、今年前半のコロナ巣ごもりの時期に、日々テレビのニュースや SNS の情報で何となく把握はしていたつもりだ。その中で、リーダーの資質や度量により、各国国民の動きが異なるものの、5 月 6 月に入りそれまでの厳しい外出制限が緩み始めるのに連れて、それまでのガマンの反動が出始めた。とりわけ米国ではコロナ蔓延が激しく、感染者数、死者数いずれも「アメリカ・ファースト？アメリカ、ワースト」となった。



7 月に入った現在もアメリカ・ワーストは変わっていない。

■Black Lives Matter の運き（次頁も参照）

その中で、Black Lives Matter 運動が米国からあちこちに飛び火しているようにも見える。コロナが直接の原因であると言い切れるのかは分からないけど、コロナというきっかけが社会に巣くう貧困や差別の現状が人々の心の中のストレスを改めて呼び起こしているように感じる。

世界中で、コロナ感染の蔓延は社会的な弱者により強く襲いかかるという点で共通していると思う。どこに行っても貧困と差別の現状は、コロナという「触媒」により改めてあぶりだされ、人々はいやおうなくその現実に向き合わなければならなくなった。

というわけで、このコロナが人々に突きつける貧困と差別の現状への再認識の必要性が、世界規模で共通しているというイメージを、私は「コロナのグローバル性」と言ったのだと、改めて思いを新たにする。

（ち）

【またいとこのブログ既報】

写真は東京都健康安全研究センター>新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の電子顕微鏡写真(走査電顕写真追加)

http://www.tokyo-eiken.go.jp/lb_virus/kansenshou/virus_gazou/sars-cov-2/

おもな内容　DJIレポート　No.121 20200730

コロナのグローバル性……1
視点・Black Lives Matter……2
消息/やぶにらみ文献紹介……3
あしあと/活動　巻末随想・オンライン終業式……4

【チヨコの視点】

Black Lives Matter

「黒人の命を軽く見るな」

『アンクル・トムの小屋』『アラバマ物語』『風と共に去りぬ』など、米国の奴隷制度に起因する黒人差別のことは、1960 年代に子供時代を過ごした私には、比較的身近な話題として触れる機会が多かったように思う。『若草物語』もまた、南北戦争の時代の銃後を守る女所帯の話だった。

キング牧師の暗殺も、人種差別への反対運動だった。そして、コロナのさなかの 21 世紀の米国では、ミネアポリスで警官に首を押さえつけられて亡くなった黒人、ジョージ・フロイド氏の死をきっかけに、問題が世界規模で広がっている。

このひろがりの中で、Black Lives Matter のスローガンが身近に見聞きされるようになった。が、たった 3 つの単語で構成されるこのスローガンは、英語を母語としていないものにとってはとても分かりにくい。新聞で、このことを取り上げた記事があったなぁと思っているうちに、その記事も見当たらなくなってしまった。探さなければ、と思っていたところに、20200625 にフェースブックで塩川伸明さんの解説を見つけた。多分、あの新聞記事を見ておられたと思われる内容なので、書き込まれたものを次に引用し、ここに記録したい。

Black Lives Matter　（引用）

この英語の訳し方にはいくつかのものがある。「黒人の命は大事だ」「黒人の命も大事だ」「黒人の命こそ大事だ」等々。どれも理由があって考案された訳だが、それぞれに批判もあり、論争的なようだ。そういう中で、ピーター・バラカンが「黒人の命を軽く見るな」と訳したという話を新聞で読んだ。これは流石だと感じ、思わず唸らされた。その後、「黒人の命を粗末にするな」という竹沢泰子訳があるのを知った。バラカン訳と竹沢訳はともに原文の主語・述語関係にこだわらないということと、肯定文を否定形の命令文に置き換えて訳すという共通性がある。英文和訳は得てして原文の文法構造にこだわるあまり、原文のニュアンスをうまく伝えないことがある。この点、バラカン訳と竹沢訳は敢えて英語の文法構造から離れることで、かえってよく趣旨を伝えているように思う。

写真は・NHK: Black Lives Matter が意味するもの 2020.06.19　より
https://www3.nhk.or.jp/news/special/presidential-election_2020/demonstration/demonstration_01.html?fbclid=IwAR2Zm8c4Bl13PZFZ_xN2fW5a_zIaMMQYeW7IKHx0TKI8Vu2HwgsAtIiFSxE（20200723 確認）

◇◆◇アーキビストの消息（順不同）◇◆◇【凡例：●個人■機関】

●島谷　容子氏　5月1日付　鳥取県公文書館→本庁
平成30年度から2年間、全史料協を通じ、鳥取県公文書管理条例等の例規調査にあたり、国際資料研究所は大変お世話になりました。お礼と共に、島谷様のますますのご活躍を祈念申し上げます。

■四国工業写真株式会社　4月付　代表取締役会長　岡野　康完氏、　代表取締役社長　香西　一伸氏

■日外アソシエーツ株式会社　6月付　代表取締役社長　山下　浩氏；　取締役相談役　大高　利夫氏

☆本コーナーへの皆様のご協力に心からお礼申し上げます。(ち)

●やぶにらみ文献紹介●◆▼●◆›●図書◆論文▼逐次刊行物■その他●◆▼●◆

【まえおき】4月からずっとコロナ禍在宅の日々が続いた。カミュ『ペスト』を読んでみようか、と思い付き、近隣図書館の蔵書を検索した。お目当ての本はすぐに探し当てたが、30人待ち。ひるんでしまい、方針転換して「ペスト、文学作品」として検索。紀元前以来欧州を繰り返し襲ったペスト禍を題材にした本に触れる機会を得た。実際にこの本を手にしてみたら、作品を読むというより「本」という情報媒体の外形に気持ちが動いた。言い換えれば、本には、所収の文字情報を超えて読者に伝える情報があることに気付かされたともいえる。以下で紹介する『プーシキン全集 3』も『世界の文学14』も、近隣の公共図書館の蔵書で触れたものだが、どちらも文学作品とは別に、意外な発見があった。『ペスト大流行』はどちらも購入した1983年の古本と2020年の新本を比較。

●ペスト流行時の酒もり　プーシキン全集第3巻　民話詩・劇詩　所収

この作品、私には読んで楽しめるとは言い難かった。が、この本のトビラの裏に**寄贈呉茂一殿**のスタンプをみつけて、本そのものの来歴に興味をそそられた。本は藤沢市中央図書館が53.4.1受入であることが、奥付頁のスタンプから知られた。呉は52年12月に亡くなっているので、没後の寄贈と推測される。寄贈者の呉茂一氏とは東京大学教授でギリシア神話の訳者で、医学者呉秀三の長男だそうだ。子供の頃読んだギリシア神話を思い出し、なんだかひどく懐かしかった。また、呉没後には、蔵書は東京大学と鎌倉図書館に寄贈されたと伝記にあった。だが、現実にはこのプーシキン全集3は藤沢市の図書館が寄贈を受けている。伝記には、晩年は藤沢市辻堂に住んだともあり、藤沢市の図書館へは、あるいは呉存命中に寄贈したとも考えられなくはない。というわけで、『プーシキン全集 3』にはモノとしての本の来歴への関心を掻き立てられた。河出書房新社1967年初版

●みかげ石　『世界の文学14　ケラー・シュティフター』所収、シュティフター「石さまざま」の第1作

中央公論社『世界の文学』所収の「みかげ石」は、かつて学生のころに読んだ作品だった。作品の名前にはかすかな記憶があったとはいえ、内容はすっかり忘れていたのだ。だが、本を手に取り読み進むうち、どうも何かが違うと感じた。あとで気付いたのだが、どうやら本の文面の余白が狭いことがその原因だった。思い立って同じ本を古書店から購入した。届いたものを見ると、図書館で借りた本は再製本が施されていることが分かった。表紙に金色ふち飾りが印刷されているオリジナルに対し、図書館のものはのっぺらぼう、本の大きさもわずかに小さくなっている。これは、化粧断ちが施されたからだろう。だから、文面を読んでいて、余白が狭いと感じたのだと気が付いた。北欧で製本技術を学んだ友人にこのことを話したら、「本は、内容だけでなく、その形状もまた、作品と呼応していなければ品格を保つことができない」という趣旨の熱っぽい言葉が返ってきた。私もこれには強く同感。なお、「みかげ石」は幼い男の子がお祖父さんと森を歩きながら、お祖父さんがそのまたお祖父さんから聞かされたペスト流行のころの昔話を聞く、という内容。（ここまで来て、ようやくコロナ禍での読書という本コラムの趣旨に戻る。）昭和40年1965年3月初版発行、350円！

●村上陽一郎『ペスト大流行―ヨーロッパ中世の崩壊―』　これは図書館で借りようとしたが叶わず、アマゾンで古本を購入した。5月の連休のころ、これを手に近所の公園まで散歩に出かけ、お気に入りのベンチでしばらく読書にふける日々が続いた。その後岩波書店から新本を入手した。古本は1983年3月の初版、新本は2020年4月の第22刷。初版初刷で見つけた誤植は22刷では訂正されていた。

内容にも少し触れておこう。ペスト流行は紀元前11世紀ごろからその記録がある（旧約聖書「サミュエル第一の書」5章、6章）そうだ。ネズミを媒体として蔓延する細菌性の疫病、十字軍遠征がペストをヨーロッパにもたらしたとか、北里柴三郎のペスト菌発見と東大との面倒な関係（これは、コロナの今も続いている）といった今につながるエピソードは、生々しく興味深い。細菌の存在が明らかになり、ペストは19世紀に概ね克服された。とはいえ、今でも世界のどこかでペスト患者が見つかることもあるという。気を付けなくては。

【Web 情報】

■●軍医学校跡地で発見された人骨問題を究明する会「人骨は告発する」 http://jinkotsu731.web.fc2.com/

「戦争被害調査会法を実現する市民会議」川村一之さんから、新しいウェブのお知らせをいただいた。公文書管理法に向けて動いていたころの仲間である。

■●ブログで放談、開始

「またいとこのブログ」　というタイトルで、tomoko さんというまたいとこと二人で、時々の話題を取り上げ、それぞれに気軽な「放談」キャッチボールをするブログを立ち上げた。コロナで自宅にいて、あれこれ考えることが多いから、それを書いてみようという試み。今のところ、週一回更新を目指している。放談だから想いは噴出。但し、根拠がはっきりしているわけでもない。皆様、どうぞご笑覧ください。

https://mataitoko.blogspot.com/2020/07/tomoko-5-6-chiyoko-20-30-tomoko-tomoko.html

（ち）

●千代子のあしあと●◆▼●◆　●図書◆論文▼逐次刊行物■その他●◆▼●◆

▼DJI レポート No.121 200730 2020 年 7 月 29 日 up, 4p. PDF 国際資料研究所 www.djichiiyoko.com

■国際連盟アーカイブにみる 1930 年代の文書事務
『記録と史料』No.30 2020・3　pp71-74　全史料協

■またいとこのブログ　放談 Tomoko&Chiyoko　フランス在住のまたいとこ Tomoko とともに、時々の話題を取り上げ「放談」の週一ヤッチボールをするブログを 7 月 4 日開設。
https://mataitoko.blogspot.com/

DJI国際資料研究所の主な活動　2020 年 5 月 11 日～2020 年 7 月 30 日

凡例：~~3 月 1 日　公文書とは~~　コロナで延期・中止を示す

＜出講・講演＞

7 月 4 日　中央大学「記録管理論」ゲストスピーカー　アーカイブについてのオンライン授業（学生諸君には ppt 音声付を視聴してもらった。音声付が新鮮に受け止められた模様。）

7 月 18 日　ともろうカフェ『「公文書とは？」～モリカケ、サクラと公文書管理法～』　越谷市男女共同参画支援センター「ほっと越谷」ｾﾐﾅｰﾙｰﾑ、NPO 男女共同参画こしがやともろう主催

↑ﾌｪｰｽｼｰﾙﾄﾞ初体験

＜執筆・編集＞

3 月 31 日付　「国際連盟アーカイブにみる 1930 年代の文書事務　-1933 年 3 月 27 日付国際電報@国際連盟アーカイブを考察する－」『記録と史料』No.30 2020・3　pp71-74 全史料協

7 月 4 日「またいとこのブログ」開設 フランス在住のまたいとこ Tomoko と時々の話題で「放談」毎週更新、今はコロナがテーマ。
https://mataitoko.blogspot.com/

＜参加＞

6 月 27 日、7 月 25 日　町内会役員会、総会 東海岸市民の家、藤沢

6 月 30 日　海外アーカイブ・ボランティア・メンバー5 人で zoom 挨拶

7 月 1 日　ジュネーブ UNHCR のメンバーと日本のボランティアメンバー10 人で zoom 挨拶

7 月 24 日　オンライン高校同期会

7 月 28 日 寒川文書館運営審議会 寒川文書館

＜お稽古ごと＞

5 月 17,24 日 6 月 15,23,30 日 7 月 6,13,21 日 ラウラ先生とルーマニア語を学ぶ オンライン

＜その他＞

5 月 10 日　恵子先生とオンラインお茶会

6 月 14 日　mai さんと zoom お茶会

6 月 29 日　玲子先生とリアルで打合せ　辻堂デニーズ

7 月 23 日　美住町

~~5 月 22-23 日　記録管理学会研究大会~~【中止】

****

■巻末随想　オンライン終業式に想う

7 月 20 日、コロナの中の終業式があり、学校は夏休みを短縮という報道があった。登校した子供たちは教室でオンライン終業式に臨む。教室のビデオで校長先生のお話、その後教室で「君が代」を歌う様子が流れた。

ところで、きわめて個人的な感想だが、君が代の歌詞で「さざれいしの いわほをとなりて」（細石の巌となりて）のくだりはヘンだと思う。理科では、大きな岩は雨風にさらされ、小さく割れて崩れて、砂粒になると習った。だが、君が代の歌詞はその逆だ。

砂や小石がいつの間にか大きく変形するのは、火山噴火とか地殻変動とかの天変地異で堆積岩が形成される場合だ。そんなことがあったら、人間社会は大きな影響を受けるだろう。だから、「さざれ石の巌となりて」の現象をことば通りに見ていくと、安泰な政権（=君が代）の維持継続につながるとは思えない。

君が代を聞くたび、歌うたび、私は心に非科学的イメージ容認を刷り込まれるような気がする。21 世紀の今、そのような非科学的イメージを国歌として国民に反復させるのはなぜか。よもやとは思うが、日常的に科学を蔑ろにする傾向を国民が是認すれば、この国では嘘偽りがまかり通ることになりかねない。コロナ感染者数の統計に、調査総数なしで感染者数のみ公表という非科学性、地域や業種を名指す差別性にも通じるか。（ブログ既報）（ち）

Documenting Japan International Report 国際資料研究所報 電←電子バージョンのマーク ISSN 1342－632X

DJIレポート　DJIホームページ: http://www.djichiiyoko.com　No. 121　20200730

発行所：国際資料研究所 Documenting Japan International Email:djiarchiv@yahoo.co.jp 代表 小川 千代子
〒251-0045 神奈川県藤沢市辻堂東海岸3－8－24 phone 0466－31－5061　fax 0466－33－8535